

第9回定演について

2011年3月26日

標題について、実行委員会での検討状況を以下に報告する。

1. 節目の工程

5月

プログラム原稿作成依頼、チラシ納品 お山の大将演奏会を皮切りに各所に配布

6月

会場庶務要員確保、プログラム原稿締め切り

7月

合宿（2～3日）、振付練習開始、チケット配布開始

9月

広報紙・情報誌等で掲載、CATV放映、プログラム納品

10月

前日ゲネプロ（9日夜）、当日ゲネプロ（10日午前）、本番（10日14時）

11月

最終実行委員会（反省会）、多摩交流センター終了報告

2. 入場料金について

当初、入場料金を従来どおり1,500円として収支見込を立てていたが、これを1,000円にすることによりホール使用料が10万円安くなることから、議論の末今回は入場料金を1,000円とすることで運営委員会の承認を得た。

なお、この差額10万円は、収支見込に変動余裕がないことから、運営委員会で予備費とすることになった。

3. 団員へのチケットの配布方

「会場使用料が大幅増となること（八王子と日野の差額は約30万円）」及び「第10回定演から多摩交流センターの助成金（今回30万円）がなくなること」から、チケットの有料販売を確立する必要があり、全実行委員がその考え方を出すとともに、前回のチケット大口配布者にもヒアリングし、これらを元に実行委員会で議論を重ねてきた。

今回は以下によることし、その結果を見て第10回定演での有料化確立を図ることとした。

① 団員全員に一定枚数（20～30枚）のチケットを無料配布し、その分の集客に勤めてもらう。

② 一定枚数以上の集客能力のある団員には追加を無料配布する。

③ 団員は、①及び②のチケットの配布に当たっては、極力有料配布に勤め、その売り上げを団に還元する。

収支見込では還元額が10万円であるが、団としての行動目標は多摩交流センターの助成金相当額（30万円）とする。

4. 構成・演出関連

以下の基本的な考え方をベースに、詳細を詰めていく。

① 演奏会の基本コンセプト

「夢・チャレンジ」を演奏会テーマに掲げ、下記2つの要素を効果的に組み合わせお客様に大きな満足感、明るい元気をもってお帰りいただく。

- ・男声合唱そのものをじっくり聴いていただく
- ・遊び心、癒し、楽しさ等を感じていただく

② 1ステ（柳河風俗詩）

男声合唱の定番をじっくり聴いてもらうステージとし、MC、振り付け等はなし。テーマ「郷愁」

③ 2ステ（カンツオーネ）

「明るいイタリアの空に響く愛の歌」をイメージした演出を目指す。テーマ「愛」
例えば、白シャツにスカーフ、簡潔なMC等

④ 3ステ（J・Pop）

「くだけた雰囲気、笑い」と「ストーリー性・メッセージ性」のあるステージとする（MCの活用）。テーマ「今、そして未来の自分へのエール」

「自分が15歳の時のこと、今の15歳におもうこと」をテーマに団員からメッセージを募り、「手紙」の演出等に活用。

⑤ 4ステ（ミュージカル曲）

ファイナルステージに相応しい華やかで楽しめるステージとする（MC、振付活用、カラーシャツ）。テーマは「見果てぬ夢を追って」

※ 演出効果の観点から3ステ、4ステ用にカラーシャツを、2ステ用にスカーフを新調したい。

※ 映像の活用（白スクリーン設置）を検討する

5. 演出関連外部スタッフ

演出：後藤かをる 振付：青木礼（「千の風になって」の振付師）——4/2、4/9 練習見学予定

照明：飯島万成（ライティングデザイナー） 舞台監督：高橋亘（第6回、8回定演舞台監督）

6. 会場・庶務関連

主として受付・会場係りの要員配置を検討中。

7. 広報、集客関連

従来の広報手段の他、八王子市域での広報強化を行う。

八王子市の後援決定。

8. プログラム・印刷関連

お山の大將の演奏会（5月）に間に合わせるようチラシのデザイン中。

9. レセプション

会場手配済み 東急スクエアー（JR八王子北口正面）11F スカイラウンジ・クレア